

子ども・青年期臨床の現状と課題 ——委員会発足に際して

司 会：木部 則雄（こども思春期メンタルクリニック／白百合女子大学 発達心理学科）
平野 直己（北海道教育大学）
趣旨説明：木部 則雄
演 者：日下 紀子（ノートルダム清心女子大学／谷町こどもセンター）
永田 悠芽（上町カウンセリングオフィス）
浅井真奈美（小泉心理相談室）
生地 新（まめの木クリニック）
平井 正三（御池心理療法センター／サポチル）

【企画内容】

近年、子ども・青年期を取り巻く心理社会的環境は大きく変化している。不登校、発達障害、摂食障害、SNS依存、ひきこもりなど、臨床現場で直面する課題は多様化・複雑化し、症状理解や行動修正のみでは十分に対応できない事例が増えている。その背景には、子どもや青年の内的世界や家族関係、社会文化的環境が深く関与しており、精神分析的視点からの理解と支援の重要性が改めて求められている。

こうした状況を踏まえ、本学会では新たに「子ども・青年期臨床委員会」を発足する。本委員会とは、子ども・青年期臨床に携わる実践家・研究者が領域横断的に交流し、精神分析的視点に基づく臨床実践・研究・教育・研修の発展を目指すことを目的としている。

本企画では、委員会発足の意義を共有するとともに、現代の子ども・青年臨床の現状と課題について、多様な臨床現場から報告を行う。開業領域では、症状や問題行動の背後にある不安や葛藤、家族力動をどのように理解し支援へつなげるかを検討する。精神科医療では、診断や症状評価に加え、子どもの体験世界や内的現実を医療実践へどのように組み込むか、多職種連携の中で精神分析的理解をいかに生かすかを議論する。また、思春期・青年期臨床では、他者から「見られること」を意識した自己形成、承認不安や羞恥感覚、空虚感、さらにはデジタル環境が主体形成に及ぼす影響についても検討する。

さらに、研究と研修の課題についても取り上げる。英国ではMidgleyらを中心に子ども・青年心理療法の研究が進み、精神分析的アプローチの有効性を科学的に検証する成果が蓄積されている。本委員会としても国内外の研究動向を共有し、他学会との連携を図りながら研究基盤の構築を目指したい。また、英国や欧州では体系的な研修・資格制度が整備されている一方、日本では十分とは言えない現状があり、継続的な研修体制や認定制度のあり方についても検討を進める予定である。

本委員会の発足は、新たな組織を設けることにとどまらず、現代社会の中で困難を抱える子ども・青年に対する精神分析的臨床を継承し、発展させるための新たな基盤づくりでもある。本企画を通して、多様な臨床経験や課題を共有し、子ども・青年期臨床のさらなる発展に向けた実践的な対話の場としたい。